

び消防訓練指導に当たった。また、「仮設住宅警防計画」を作成して火災防止対策に当たった。

(ウ) 風水害対策

山麓部の仮設住宅地には、建設省六甲砂防工事事務所に要請して、雨量計を設置するとともに風対策用ワイヤーロープ固定方法等の現地指導に当たった。

(エ) 支援活動状況

応急仮設住宅支援活動状況は、下表のとおりである。

応急仮設住宅の火災は、2件発生し、1件は、平成7年10月30日に発生したぼや火災であったが、平成7年12月22日の深夜に発生した火災は、

不幸にして6住戸を延焼消失（全損6世帯18人・半損1世帯2人・小損17世帯47人）する火災で、この火災は、今回の地震被災地の仮設住宅における最初の炎上火災であった。

消防としては、防火対策として「警戒パトロール」、「防火ちらし配布」、「防火訓練指導」等の強化を図るとともに仮設消火栓4基を増設し、更なる安全確保に努め、以後、本市仮設住宅からの火災は発生しなかった。

なお、応急仮設住宅は復興住宅の完成や自立復興等により、学校グラウンドを優先に暫時撤去縮小し、平成10年8月26日には完全解消したところである。

応急仮設住宅支援活動状況表

種 別	回 数	備 考	
出 動	火災	2回	建物火災（ぼや1・半焼1）
	警戒	32回	簡易火災警報器等の発報
	救急	292回	約90%が急病
そ の 他	夜間警戒パトロール	178回	
	花火警戒パトロール	19回	
	豪雨警戒パトロール	40回	台風を含む
	昼夜間パトロール	51回	防火ちらし配布、プロパンガスボンベ設置状況調査
	訓練	22回	

仮設消防水利（仮設消火栓・仮設防火水槽）設置状況

場 所	住戸数	仮設消防水利
高浜町10番1号	746戸	消火栓5基（当初2基、増設3基）
中央公園（若葉町）	384戸	消火栓2基（当初1基、増設1基）
芦屋大学グラウンド（高浜町）	336戸	消火栓1基
市立芦屋高校グラウンド（剣谷）	71戸	簡易防火水槽（2ト）1基

カ 各種警戒、警備活動

天皇・皇后両陛下は、平成7年1月31日に「阪神・淡路大震災」の被災者お見舞いのため、避難所となった精道小学校を訪問され、被災者を慰労激励された。また、皇太子、同妃殿下は、2月26日に執り行われた「兵庫県南部地震芦屋市犠牲者合同慰霊祭」にご参列され、消防職・団員は、特別警戒の警護に当たった。

警戒業務については、1月25日から主に消防団が定期警戒に当たり、2月26日の消防団としての災害活動を終えるまで警戒業務に当たった。

キ 災害救助法等財政対策活動

財政対策事務については、1月25日頃から、平成

6年度消防防災施設災害復旧費補助事業事務を皮切りに平成6年度補正予算、平成7年度予算（見直し）及び災害救助法申請等の諸事務に着手したが、応急災害活動業務優先の中での業務であり、数名の職員を指定してその任に当たらせ、消防本部内調整及び市財政担当者との調整は、深夜帯に行うという状況で、予算についても、災害対策、震災復興に緊急に必要な事項を最優先とし、新規事業、年次計画的事業は、すべて凍結又は見送りとし、消防費予算は、経常的経費を縮減し、主として、余震、二次災害防止活動用資機材の整備経費等を計上して平成7年2月及び3月市会に上程するというあわただしさであった。